

穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会 会議概要

委員会名 第2回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会
日時 平成23年1月19日(水) 10:00~12:00
場所 V i f 穂高 多目的ホール
出席者 腰原委員、川上委員、勝野委員、北澤委員、塚田委員、衛藤委員、土屋委員、河村委員、 辻谷委員、宇留賀委員、佐藤委員、臺委員 市側出席者 大内商工観光部長、高橋観光課長、赤羽観光施設係長、丸山(真)主査、 丸山(武)主査 公開・非公開の別 <u>公開</u> ・非公開 傍聴人 2名 記者 1名
協議事項等
1.会議概要 (1) 開会 (2) あいさつ (3) 協議事項 ①前回意見の確認 ②宿泊施設あり方検討委員会の答申の検討 ③穂高温泉郷における現状分析と課題 ④温泉の活用について ⑤その他 (4) その他 (5) 閉会
2.会議要旨 ◇委員の皆さんのご意見をお聞きして、具体的な方向性を示したい。(委員長) ◇安曇野市宿泊施設等あり方検討専門委員会議(以下『あり方』という。)の答申なども参考にして いただいて、今後の方向性を決めてほしい。(事務局) ◇コストの問題もあるが、規模などの見直しの提案ができればと思う。穂高ヘルスハウスも含めて、 『あり方』の答申の(ア) 廃止の方向で検討すべきである。(ウ) <u>穂高ヘルスハウスを廃止し、 しゃくなげ荘を建て替えるとした場合においては、日帰り入浴程度の機能にとどめるべきである。</u> のどちらを選択するか検討をしてほしい。(委員長) ◇現状のしゃくなげ荘では施設の劣化も著しく安曇野市にとってマイナスである。穂高ヘルスハウ スと一緒に日帰り入浴施設を建てるべきである。宿泊施設はなくていい。(委員) ◇廃止するか建て替えるかの選択であれば、建て替えるに賛成である。穂高温泉郷に公共施設がなく なると、穂高温泉郷が地図上に表記されない可能性があり、観光として困難が生じると思う。建 て替える場合も、観光・市民の福利厚生も併せて考え、コンセプトのある大きな絵をまず描かな ければいけない。観光業界だけでなくすべての業界が一体となって、駐車場ほか周辺の整備を考 えなければいけない。エコの視点から自転車の観光なども検討したほうがいい。(委員) ◇日帰り温泉入浴施設として残してほしい。穂高温泉郷を案内する際にしゃくなげ荘がポイントで ある。あの場所にあることが重要である。(委員)

- ◇12月から開始して3月に結論を出すのは厳しい。行政がこの課題をその都度うやむやにしている。『あり方』の答申がクローズアップされているが、実際に地元を見て人の意見を聞いたのか。箱物だけで反対というのはおかしい。行政の考えも聞きたい。市民の福利厚生か観光を主目的にするのかで結果が違ってくる。(委員)
- ◇しゃくなげ荘は老朽化しているので、周辺土地の活用も考慮して建て替える必要があると思う。ランドマークになるものが必要である。(委員)
- ◇しゃくなげ荘を建て替えてほしい。「ファインビュー室山」や「ほりで一ゆ〜四季の郷」についてみんなに聞くと結構利用しているようである。夏の修学旅行・合宿のニーズがあるので、安曇野市内では「啼鳥山荘」の利用が多いようであるが、宿泊施設ができればあったほうが良いと思う。施設の売りとして、宿泊ができないと厳しい。もしだめでも規模は今より大きいものを作ってほしい。(委員)
- ◇しゃくなげ荘の名前を残してほしい。今よりも穂高温泉郷のメインとしてしっかり根付いたものを作ってほしい。周辺に大きな影響を及ぼすと思う。(委員)
- ◇しゃくなげ荘が果たしてきた役割は大きく、ブランド価値もある。このブランドを生かして観光の拠点となる物が必要である。オリンピック道路を通過して大王わさび農場へは行った大勢の観光客を山麓線へどう向かわせるかが課題。穂高温泉郷に魅力ある施設がないのが弱み。しゃくなげ荘の建て替えは必要で、財政的に難しいが、拠点となるものを作るならば、宿泊施設が必要だと思う。日帰り入浴だけであっても集客ができる要素を盛り込まなければいけない。単なる健康的な入浴施設では不十分である。(委員)
- ◇市では穂高温泉郷を安曇野市の重要な観光拠点として位置づけると言っているので、市民だけでなく、市外の人とも呼び込みたいという考えだと思う。そうであれば宿泊施設が必要だと思う。しゃくなげ荘のお湯は良いというファンが多い。県外の利用者も多い。地元の住民にはできれば宿泊施設を作ってほしいという意見が多いです。(委員)
- ◇方向性を市民中心に考えるのか、観光交流人口もターゲットに考えるのか、何をきっかけにどのようにまとめていくのか難しいと思う。『あり方』の答申はどこを強調したいのか分からない。廃止の方向で検討は皆さん反対だと思う。しゃくなげ荘の経緯を考慮した上で、新しい役割が何か、対象が市民だけでいいのか、十分に考えなければいけない。(委員)
- ◇前回の委員会後しゃくなげ荘・ビブ穂高などを見学した。しゃくなげ荘の宿泊の稼働率が低いので、宿泊施設を作って利益を出すのは難しいと思うので、『あり方』が(ウ) 穂高ヘルスハウスを廃止し、しゃくなげ荘を建て替えるとした場合においては、日帰り入浴程度の機能にとどめるべきである。ということを出したと思う。宿泊施設を無理して作るよりは周辺の既存施設に頑張ってもらえばいい。地元の人を重視した方がいい。ヘルスハウスは重複しているので検討の必要がある。利用者の8割が市民であるのに市民DAYが月に3回ではさみしい。住民がサービスを気軽に受けられるような仕組みを考えてほしい。地元の人が楽しんでイベントホールで地元の食材で試食会をやっているそんなところへ観光客が立ち寄る。しゃくなげ荘を観光の拠点にすることを重視して考えないほうがいい。(委員)
- ◇『あり方』の答申が遅れて委員会の開催が遅れてしまった。この委員会では細部までではなく方向性を示していただきたい。市民に利用してもらおう施設の整備を考えるのが原則であるが、観光客にも利用していただける周辺整備を検討したい。そのためにどんなものを作ればいいのか。安曇野市農林部の所管している6施設も含めて市の方向性を出したい。(事務局)

◇皆さんいろんな意見があると思うが、基本的に廃止ではなく、存続・建て替え・周辺整備も考えていくという方向でよろしいでしょうか。(委員長)

◇長野県へは自然・文化・歴史・食に魅力を感じて観光客が来る。観光資源は一流だが、山岳ガイドもあるが、提供する側の資質が問題である。満足度が上がらない。リピーターが少ない。この状況を見捨てるわけにはいかない。箱物を作ってはみたけれどということがよくある。地元民が生き生きしているところへ行きたいと観光客は思っている。施設を個人所有させてもらって学生が経営をした事例もある。島根県では一年中満室の事例もあった。目的を一つに絞ったほうがいい。地元の住民が生き生きするように整備し、観光の旗を振らないほうがいい。安曇野のブランドを汚してはいけない。マーケティングをして、安曇野を最先端の地域として価値観を高めていければと思う。ホスピタリティーの追求も重要である。(委員)

◇長野県では、松本大学・長野大学などでおもてなし講座をやっているが、やっている理由は、長野県に対する顧客満足度が低いデータがあるからで、いろんな素材があるのに来た人が満足しない。素敵なものがあればそれだけで今の客は満足しない。中途半端な宿泊施設は必要ない。楽しさをどう伝えていくのか。相手への伝え方が上手でない。まず地元の人が元気になる場所づくりが必要で、市の立場で重視した観光を客は求めている。テーマ別に絞り込んでいかないと伝わらない時代。観光は難しい。観光も併せてやるといったスタイルはやめたほうがいい。地元の企画が伝わるような筋書きができれば、ブランドを壊さずにすむと思う。皆さんが元気に楽しく暮らせる拠点づくりが必要。(委員)

◇方向性の定める中で存続、宿泊についてはどうですか。(委員長)

◇信州あづみ野穂高温泉旅館組合では宿泊施設建設に反対したという経緯もある。公的資金で建設した「ファインビュー室山」や「ほりで一ゆ〜四季の郷」が営業して、民間を圧迫しているところから始まっている。固定資産税などの支払いについて民間と同じ条件のもとであれば納得する。税金を使う場合、市民に対しての割引はいいが、市民以外に対してはおかしい。(委員)

◇平成12年5月に閣議決定し、国の通達などでも民が出来ることは民での方針が出されている。公の施設であり税金を使うので、市民のための施設でなければいけない。指定管理者も経営状況が考慮されることはあるが、市へ納付金を納めている。(事務局)

◇3月で結論を出すのは難しいが、方向性を出すということできたい。宿泊施設については考えないほうがいいのかと思う。(委員長)

◇『あいそめの湯』は別所温泉にあり、上田市の施設であったものを、場所を変えて建て替えた日帰り入浴施設である。基本的には市民の交流施設ですが観光客も多く利用している。乗車券と入浴券のセットもある。別所温泉では宿泊客が漸減しているが、日帰り入浴は人気がある。手ぶらで行ってタオルを買えば入浴できる。駐車場のスペースもあり、8割が地元の人が利用し、仕事帰りの人も利用している。イベントでも施設が使われている。「クアハウスかけゆ」は地域の交流拠点で、調理室、多目的ホールがある。2つの施設はしゃくなげ荘にも参考になる点があると思う。(委員)

◇観光力を高めるために一番大切なことは地域住民のニーズを確かめていくこと。3月までに結論はでないかもしれないが、しっかりした方向性を出していきたい。(委員長)

◇他の事例を参考にするのは反対である。安曇野独自のものを作らなければいけない。マネをするのであれば建設は反対である。(委員)

◇次回には討議の柱を具体的に決めていただきたい。手順を踏まないとその都度意見を言わなければいけない。(委員)

◇事例を参考にしてしゃくなげ荘について考えてほしい。事務局からも案を出していただきたい。(委員長)

◇今までしゃくなげ荘をどうするのかの1点に絞られている。周辺整備については触れていない。他の施設も含めての検討を次回からお願いしたい。穂高温泉郷にも民間施設が点在しているが、活力・元気が見えてこない。宿泊施設が元気に地元を巻き込んでというのが見えない。穂高温泉郷の核となるものを作れば力が出てくるのではないか。しゃくなげ荘は重要だと思う。(委員)

◇住民福祉を重視したほうがいい。地元の人が頑張る姿を求めて外から観光客がやってくる。滞在型観光は、宿泊を伴うということだと思うが、宿泊ができなくなった場合、今までの客はどこが吸収するのか、できなければ他の観光地へ行ってしまうのか。今までしゃくなげ荘には温泉宿というイメージを持って泊めさせてもらっていた。国営アルプスあづみの公園【大町・松川地区】には宿泊施設は作らないことにした。周辺の宿泊施設に期待した。観光を重視して考える場合は滞在型でないとお金は落ちない。宿泊施設なしでは観光としては厳しい。(委員)

◇住民福祉が大切で、最終的にはサービスにいきつく。穂高温泉郷に宿泊施設がたくさんあるが、リピーター型滞在も考えていかなければいけない。(委員長)

◇他のところをマネするというのではなく、参考にしていただきたい。(事務局)

◇観光か福祉の意見があるが、安曇野の温泉は知名度がない。アップさせるためには核になる施設が必要。天然温泉をアピールしなければいけない。男女の浴槽が別れているだけではだめである。歩行湯・露天風呂・サウナなどが無いといけない。一般的な公衆浴場は必要ない。外湯・内湯の料金が違うということがあってもいい。(委員)

◇今日の出された意見をたたき台にして次回以降議論していただきたいと思う。(委員長)

次回 平成 23 年 2 月 2 日の予定